

白鳥神社と神聖な宝物

白鳥神社は、日本神話に登場する英雄、皇子ヤマトタケルの幻の訪問を受けた性空（910-1007）という僧が 959 年に創建したと言われています。幻は性空に彼らが立っていた場所に崇拝の場所を造るよう告げたので、僧は六観音（六体の慈悲の女神、観音の像）を彫りました。やがてこの場所は白鳥神社として知られるようになりましたが、神社は後に火山活動を避けて現在の場所に移りました。

1809 年、本殿は火事で焼失し、龍と雲が繊細に彫りこまれた装飾柱「巻柱」と「牡丹に唐獅子」を作ったと言われている建築と彫刻の名匠、左甚五郎（1594-1651）の助けを借りて再建されました。

白鳥神社には、奈良の東大寺との約 300 年前から続く強いつながりがあります。東大寺の大仏殿の 3,020 トンの屋根の重さのほとんどを支える二本の虹梁（arched beams）は、かつて白鳥神社の敷地にそびえ立っていた松の木でした。これらの巨大な木がなければ、大仏殿は完成できなかったと言われています。

ヤマトタケルの石像

この現代的な石の彫刻は、当時 84 歳のよしだみつと 36 歳のひらいちかしの 2 人の石彫職人によって作られました。二人は共に作業にあたり、吉田は病気と老いに苦しみつつも平井に技術を教えました。完成した像は 1998 年 10 月 23 日に設置されました。

白鳥夫婦杉 (御神木)

白鳥山は、1,000 年以上にわたって神聖な場所と見なされており、ここには樹齢約 500 年と言われる神聖な杉の木、白鳥夫婦杉御由緒があります。この巨木は、本殿の横のひっそりとした小道に立っており、大きさは直径 1.9 メートル、周囲 6 メートルです。

武運祈願の碑

この記念碑は、日中戦争中に軍艦が使用した砲弾です。武運長久（戦いでの幸運が続くこと）を祈願して神社に奉納されました。砲弾の重量は 80 キログラムで、それを持ち上げることができれば御神徳を給われると言われています。